The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「助言」の会話の日・タイ対照研究 : 問題となる事柄の深刻度の高い場面に着目して
Author(s)	デンスパー, スワッタナー
Citation	日本語・日本文化研究. 2015, 25, p. 22-33
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54494
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「助言」の会話の日・タイ対照研究
―問題となる事柄の深刻度の高い場面に着目して―

デンスパー　スワッタナー

1. はじめに

「助言」は、「相手の抱えている問題や悩みを解決する方法を提案するために行う言語行動」である。「助言」は相手がより望ましい状況になるための発話であるが、Brown & Levinson（1987）では「助言」は、相手のネガティブ・フェイスに触れる言語行動であるため、相手の不満を招く可能性があると述べている。従って、日本語学習者にとって、母語と日本語での「助言」の方法が異なる場合、日本語母語話者とは異なった方法で「助言」してしまうと、コミュニケーション上の問題が起こる可能性があり、人間関係を壊すことにもなりかねない。

このような問題意識から、日本語教育においては日本語学習者の母語の「助言」と比較しながら、日本語における「助言」の言語行動を指導する必要があると考えられる。そこで、本研究では日本語と筆者の母語であるタイ語の「助言」の談話構造を分析し、両言語における対照研究を行い、日本語教育への応用の可能性を考察する。

2. 先行研究

2.1 「助言」の定義

本研究では Thanpawasu（2000）が規定した「助言」の定義を参考にし、修正を加えたものを用いて研究を行う。本研究における「助言」とは、「助言者が相談者の抱えている問題や悩みを解決する方法を提案するために行う言語行動」のことである。

2.2　先行研究の問題点

日本語の「助言」に関する先行研究は、これまであまり多くなされておらず、タイ語の「助言」に関してはわずかの研究があるのみである。 Thanpawasu（2000）では、「助言表現」を発話レベルで分析しているが、「助言」の前後の発話については扱われていない。また、熊取谷・村上（1992）と鹿嶋（2000）では、談話レベルでの研究を行っているが、「助言」の談話構造については言及していない。元（2012）では、日本語と中国語における「助言」の談話構造について研究を行っているが、会話参加者の親疎関係の視点から、「助言」ストラテジーの相違およびその原因を明らかにしている。

以上に述べた先行研究では、「助言」の対象となる問題の事柄の性質という視点から「助言」の会話を分析するものがなかったため、本研究では「助言」の場面における問題の事柄の性質に着目して、「助言」の談話構造を分析し、日本語母語話者とタイ語母語話者の間で、問題の事柄によって「助言」の仕方にどのような相違が見られるのかを考察する。

3. 研究方法

3.1　研究目的

本研究では「助言」の対象となる問題の事柄の深刻度、および問題の共有（相談者と助言者が共に抱える問題）・非共有（相談者のみの問題）という 2 つの要因が「助言」の仕方とどのように関わっているかを明らかにすることが目的である。本稿では、その研究の一部として、日本語母語話者とタイ語母語話者による「助言」について、事柄の深刻度に注目して詳細に分析し、考察する。そして、両言語の「助言」の談話構造を対照し、相違点を明らかにする。

3.2 調査協力者と調査方法

調査協力者は日本語母語話者とタイ語母語話者の女子大学生で、2012 年 2 月～2014 年 5 月に大阪とバンコクで調査を行った。各言語の母語話者、各場面 5 ペア計 10 名[i]ずつに「助言」のロールプレイをしてもらい、IC レコーダーで録音し文字化した。ロールプレイの際、「助言」を求める側（以下、相談者）は「助言」をする側（以下、助言者）に話しかけ、会話を開始するように指示した。なお、調査は大阪とバンコクに限られているため、地域差による影響がある可能性があり、一般化には限界がある。この点については今後データを増やして分析したい。

ロールプレイの場面設定については問題の深刻度と問題の共有・非共有という 2 つの要因によって以下の 4 つの場面を設定した。また、上下、親疎関係については全ての場面において会話参加者は「親しい同性の友達」であると設定した。

場面①：結婚式に着て行く服について助言を求める場面（深刻度 - 低、非共有）

場面②：今勉強している学部について助言を求める場面（深刻度 - 高、非共有）

場面③：彼氏へのバレンタインのプレゼントについて助言を求める場面（深刻度 - 低、共有）

場面④：卒業後の進路について助言を求める場面（深刻度 - 高、共有）

なお、紙数の都合により、本稿では場面②のみ扱う。以下は、場面②のロールカードである[ii]。

場面②：今勉強している学部について助言を求める場面（深刻度-高、相談者のみの問題）

ロールカード A	ロールカード B
あなたは B さんと親しい関係で、よく話したり、相談したりしています。 今朝、B さんと同じ授業に出席したあと、昼休みに一緒に食堂へ昼ご飯を食べにいきました。食べ終わってから、次の授業が始まるまで後 30 分ほどあります。 あなたは大学 2 年生です。今在学している学部	あなたは A さんと親しい関係で、よく話したり、相談したりしています。 今朝、A さんと同じ授業に出席したあと、昼休みに一緒に食堂へ昼ご飯を食べにいきました。食べ終わってから、次の授業が始まるまで後 30 分ほどあります。 次の授業が始まるのを待っている間に、A さん

が自分に向いていないと思っています。あなたは今の学部をやめたほうがいいか、それとも今の学部で勉強し続けたほうがいいのか、ずっと悩んでいます。B さんにどちらがいいか聞いてみてください。	があなたに話を始めました。A さんと話してください。

3.3 分析枠組み

分析にあたっては、文字化[iii]したロールプレイデータの各発話に発話機能[iv]をつけ、「助言」の会話全体を大きく、開始部、主要部、終了部に分ける。さらに≪開始の部分≫、≪問題提示の部分①≫、≪問題提示の部分②～≫、≪助言の部分≫、≪解決案提示の部分≫、≪問題共有の部分≫、≪決意表明の部分≫、≪終了の部分≫の 8 種類の部分に区分し、日本語とタイ語における「助言」の会話全体の談話構造と各部および部分の特徴を分析した上で、両言語を対照する。「助言」の談話構造の区分基準は、次の通りである。

(1) 開始部

- ≪開始の部分≫は、相談者が相手に話しかけ、事情を説明する前の部分である。
- ≪問題提示の部分①≫は、相談者が事情を説明し、助言者に問題の内容を把握させたり、助言を要求したりする部分である。

(2) 主要部

- ≪問題提示の部分②～≫は、相談者がさらに詳しい問題を提示し、助言を要求する部分である。
- ≪助言の部分≫は、助言者が問題に関する情報を要求して問題の詳細を把握した上で、助言を行う部分である。
- ≪解決案提示の部分≫は、相談者が問題に対する解決案について話したり、相手に聞いたりする部分である。
- ≪問題共有の部分≫は、相談者と助言者が共に抱える問題について悩んでいることをお互いに言い合う部分である[v]。

(3) 終了部

- ≪決意表明の部分≫は、相談者が助言を聞いた上で、問題に対する決意を表明する部分である。
- ≪終了の部分≫は、相談者が問題に対する決意を表明した後の部分から会話が終了するまでの部分である。

4. 結果と考察

日本語とタイ語における「助言」の談話構造を分析し、対照研究を行った上で、相違点をまとめた。日本語母語話者、タイ語母語話者の順に 4.1 で「助言」の談話構造の全体的な流れ、4.2 で「助言」の談話構造における部分ごとの特徴について述べる。なお、今回は≪開

始の部分≫と≪終了の部分≫の考察を省くこととする。

4.1　「助言」の談話構造の全体的な流れ

本稿で分析する「助言」の場面②「今勉強している学部について助言を求める場面」では、両言語共、同じような談話構造の流れが見られた。開始部では、≪開始の部分≫の後、相談者が今抱えている問題の事情について説明をしたり、助言者に助言を求めたりするという≪問題提示の部分①≫が見られた。

主要部では、まず助言者が開始部における相談者の≪問題提示の部分①≫に対して、≪助言の部分≫で、更なる情報を求めて問題の詳細を把握した後、助言を行っていた。それから、相談者が≪問題提示の部分②～≫において、さらに詳しい問題を出したり、助言者に助言を求めたり、または≪解決案提示の部分≫において、相談者が自分で考えた解決案について話したり、相談者または助言者が相手の解決案について聞いたりしていた。それに対して、助言者は再び≪助言の部分≫において、相手の問題に関する情報を求めたり、助言を行ったりしていた[vi]。その後、≪問題提示の部分③～≫または≪解決案提示の部分≫と≪助言の部分≫が繰り返されることによって、相談者の問題に対する解決案が少しずつ明らかになっていく。

終了部では、≪決意表明の部分≫において、相談者が問題に対する決意を示した後、≪終了の部分≫が見られた。

4.2　「助言」の談話構造における部分ごとの特徴

本節では、≪問題提示の部分①と②～≫、≪助言の部分≫、≪解決案提示の部分≫、≪決意表明の部分≫について、会話例を挙げて説明する。

4.2.1　≪問題提示の部分①と②～≫

まず、≪問題提示の部分①≫においては、両言語共、相談者が問題の内容について【事情説明】をする前に、助言者に【呼びかけ】をするが、日本語では「あの：」、「えと：」、「ねえ」などといった開始のマーカーが使われていたのに対して、タイ語では、助言者の名前を呼ぶ方法が使われていた。その後、日本語では、相談者による【事情説明】に対して、助言者が【理解】または【驚き】を示した後、相談者がそれを受け、続いて【事情説明】をすることによって、話者交替が行われていたが、タイ語では、相談者が【事情説明】を一人で話し続け、ターンを保持していた。

日本語の会話例 1 では、相談者がまず 01A で助言者に「あのさ：,」と【呼びかけ】をし、助言者が 02B で「うん.」と【応答】をしている。そして、相談者が 04A～08A で今気になっていることがあるという【事情説明】をしてから、その【事情説明】に対して、助言者が 05A で【理解】を示した後、相談者はそれを受け、続いて 11A～16A で今勉強している学部について悩んでいることを【事情説明】することによって、非明示的に助言を求めている。

会話例 1（JP8 会話）

≪開始部ー問題提示の部分①≫					
01	A	:	あのさ：,	【呼びかけ】	
02	B	:	うん.		【応答】
03		:	(2.0)		
04	A	:	ちょっと気になっ(.)気になってるっていうか：,	【事情説明】	
05	B	:	うん.		【理解】
06	A	:	自分の中で,	【事情説明】	
07	B	:	うん.		【理解】
08	A	:	考えてることがあって,	【事情説明】	
09	B	:	うん.		【理解】
10		:	(3.0)		
11	A	:	ずっとね,	【事情説明】	
12	B	:	うん.		【理解】
13	A	:	え：〇〇（学部名）,	【事情説明】	
14		:	(2.0)		
15	B	:	うん［うん.		【理解】
16	A	:	［もう(.)で［本当に(.)いいのかなみたいな.	【事情説明】	
17	B	:	［うん. うん.		【理解】

一方、タイ語の会話例 2 では、相談者が 01A で助言者の名前で【呼びかけ】をしてから、続いて、今勉強している学部について悩んでいることを【事情説明】することによって、非明示的に助言を求めている。

会話例 2（TH7 会話）

≪開始部ー問題提示の部分①≫					
01	A	:	B: เราว่าเราเรียนบริหารญี่ปุ่นไม่ไหวแล้วอ่ะ.	【呼びかけ】	＋
			B: あたしもうビジネス日本語が無理.	【事情説明】	

また、≪問題提示の部分②～≫においては、両言語共、相談者が【問題提示】でさらに詳しい問題を出したり、【助言要求】で助言者に助言を求めたりするが、日本語では【問題提示】が非明示的な助言の要求となるのに対して、タイ語では【助言要求】で明示的に助言を求める傾向が強い。

日本語の会話例 3 では、相談者が 41A～49A で今の学部をやめて他の学部に行く勇気がないという【問題提示】をすると、助言者はそれに対して 50B で【理解】を示し、「そっかそっか.」と相談者が悩んでいることを受けとめている。ここでは相談者の【助言要求】は行われていない。

会話例 3（JP10 会話）

≪主要部ー問題提示の部分②≫					
41	A	:	そうだから,	【問題提示】	
42	B	:	う：ん		【理解】
43	A	:	なんか(.)他の(.)学部に行こうっていう(.)	【問題提示】	
44		:	勇気もあんまり(.)ないけど,		
45	B	:	う［：：ん(.)［〇〇（学部名）の,		【理解】
46	A	:	［でも,　［このまま行くのもなんか,	【問題提示】	
47		:	［どうなんかな：,		
48	B	:	［いや(.)う：：ん.		【理解】
49	A	:	と思って,	【問題提示】	
50	B	:	そっかそっか.		【理解】

一方、タイ語の会話例 4 では、相談者が 18A でこれからどうしたらいいのか迷っているという【問題提示】をしてから、20A で助言者に「転部したほうがいい？」と【助言要求】で明示的に助言を求めている。

会話例 4（TH8 会話）

≪主要部ー問題提示の部分②≫					
18	A	:	อ๊อย：แต่ก็คิดอยู่ว่า(.)ทำไงดีอ่ะ,	【問題提示】	＋
			え：でも迷ってる(.)どうしようって,		
19	B	:	แก,		【呼びかけ】
			ねえ,		
20	A	:	ซิ่วดีเปล่าวะ?	【助言要求】	
			転部したほうがいい？		
21	B	:	เหอะ?ซิ่ว?		【驚き】
			え？転部？		
22	A	:	hhh.		

4.2.2　≪助言の部分≫

≪助言の部分≫では、両言語共、相談者によって≪問題提示の部分①/②～≫で提示された問題について、助言者が【情報要求】や【確認要求】を行うと、相談者は問題に関する【情報提供】や【確認】を行っていた。そして、助言者は相談者の問題の詳細を把握した後、【意見提示】で自分の意見を述べたり、【提案】をしたりすることによって、相談者に助言を行っていたが、日本語では助言者が【意見提示】で相談者に非明示的な助言を行うのに対して、タイ語では助言者が【提案】の形で相談者に明示的な助言を行う傾向が見られた。

日本語の会話例 5 では、助言者が 104B～110B では今の学部をやめたほうがいいという【意見提示】、112B～115B では今の学部を安易にやめないほうがいいという【意見提示】

をすることによって、問題に対する解決案の選択肢を与えながら、相談者に非明示的に助言を行っている。

会話例 5（JP8 会話）

≪主要部ー助言の部分≫					
104		:	えでも(.)なんだろう(.)でも言語違うなって思って：,		【意見提示】
					（助言）
105	A	:	゜うん. ゜	【保留】	
106	B	:	やり続けるのもなんかもったいない気もするし,		【意見提示】
					（助言）
107	A	:	゜うん. ゜	【保留】	
108	B	:	もう二年間やって：(.)後はま自分でなんとかできる		【意見提示】
109		:	な：って思ったんだったら：(.)新しい道挑戦して		（助言）
110		:	みるのもありだと(.)思うよ. (.)うん.		
111	A	:	う：ん.	【保留】	
112	B	:	それをやりたいならねA(.)なんか(.)でもなんか		【意見提示】
113		:	○○（学部名）は：いやだけど：(.)		（助言）
114		:	その(.)○○（学部名）いやだから：		
115		:	そっちになんか逃げるみたいなのはよくない［と思う.		
116	A	:	［あ：：.	【保留】	

一方、タイ語の会話例 6 では、助言者が 11B、15B～16B で今の学部や学部での勉強について「よく考えたほうがいい」または「一生懸命頑張ったほうがいい」という【提案】をして、相談者に明示的に助言を行っている。そして、物理が難しくて、転部したいと言った相談者に「授業内容で分からないところがあったら、教えよう」と【申し出】をしている。

会話例 6（TH6 会話）

≪主要部ー助言の部分≫					
11	B	:	คิดดีๆนะ:.(.)เพราะว่ามัน(.)เสียเวลานะ(.)		【提案】
			よく考えてね. (.)時間の無駄になるから（.）		（助言）
12		:	สองปีที่เรียนมาอ่ะ.	＋	【理由説明】
			勉強してきたこの 2 年間.		
13	A	:	ใช่::เราก็คิดอย่างนั้นเหมือนกัน.	【受け入れ】	
			うん：：あたしもそう思ってる.		
14		:	(3.0)		
15	B	:	งั้น:ลองพยายามให้เต็มที่ดูหน่อยมั้ย?(.)		【提案】
			じゃあ：一生懸命頑張ってみる？(.)		（助言）＋

16	:	แล้ว:ก็(.)คิดดูอีกที(.)ถ้ามีปัญหาอะไรปรึกษาเราได้.	【申し出】
		で：なんか(.)もう一度考えてみて(.)	
		分からないところがあったら、聞いてね.	

4.2.3 ≪解決案提示の部分≫

≪解決案提示の部分≫において、日本語では、相談者が自分で考えた解決案について【意志表明】または【意見提示】の形でこれからその案通りにすると宣言する傾向があったが、タイ語では、相談者または助言者が相手の解決案について尋ねる傾向が見られた。

日本語の会話例 7 では、相談者が 114A～118A で自分のやりたいことについて【意志表明】で話している。

会話例 7（JP10 会話）

≪主要部－解決案提示の部分≫				
114	A	:	うんそっちに行こうかなと思って,	【意志表明】
115	B	:	そうやな：.	【同意】
116	A	:	なんか外国(.)語を勉強するっていうよりかは,	【意志表明】
117	B	:	うん.	【理解】
118	A	:	なんか(.)お芝居とかやろうと思(h)っ(h)て(h),	【意志表明】
119	B	:	[[h.	
120	A	:	[[hh.	
121	B	:	そっかそっか.	【理解】

一方、タイ語の会話例 8 では、相談者が 40A で助言者に「あなたならどうするか」という形での【情報要求】で解決案を尋ねている。これは、助言者が相談者の立場だったらと例えることで、相談者の気持ちに配慮せずに考えることができるため、助言者にとってさらに問題に答えやすくなるからなのではないかと考えられる。

会話例 8（TH10 会話）

≪主要部－解決案提示の部分≫					
40	A	:	ทำไงอ่ะแกช่วยเราคิดหน่อยดิถ้าเป็นแกทำไงอ่ะ?	【助言要求】	＋
			どうしよう．もう一緒に考えてよ．あんただったら、どうするの？	【情報要求】	
41	B	:	ถ้าเป็นเราก็:เรียนให้จบก่อนแล้วค่อย(.)อยากทำไรค่อยไปทำ.		【情報提供】
			あたしだったら：まず卒業して (.)後でやりたいことをする.		
42	A	:	จริงอ๋อ?	【確認要求】	
			本当に？		
43	B	:	อือ.		【確認】

うん.

4.2.4　≪決意表明の部分≫

≪決意表明の部分≫においては、両言語共、相談者が問題に対する【決意表明】をした後、助言者はその【決意表明】に対して【理解】または【同意】をしてから、再びその【決意表明】に合うような助言を行っていた。また、助言者に対する相談者の【感謝】、さらには助言者から相談者への【励まし】も見られた。

日本語の会話例 9 では、相談者の 279A と 283A の【決意表明】に対し、助言者が 280B と 284B で【理解】をした後、続いて 284B～285B で「今の学部で勉強しても悪くはないということを忘れないでほしい」という【願望】を示すことによって、相談者に非明示的に助言を行っている。その後、相談者が 286A で助言者からの助言に対して、【受け入れ】をしてから、288A で助言者に【感謝】をしている。

会話例 9（JP7 会話）

≪終了部－決意表明の部分≫					
279	A	：	まやってみる.	【決意表明】	
280	B	：	う：ん.（.）っていうのもありかもしれへんし.		【理解】＋【意見提示】
281	A	：	そうやな：.	【同意】	
282	B	：	う：ん.		【理解】
283	A	：	゜う：ん.゜（.）じゃあま頑張ってみるわ.	【決意表明】	
284	B	：	うん.（.）でもここにおってもマイナスではない		【理解】＋
285		：	っていうのも忘れんといてほしいな hhh.		【願望】（助言）
286	A	：	う：んオッケーオッケー.	【受け入れ】	
287	B	：	う：ん.		【理解】
288	A	：	ありがとう.	【感謝】	
289	B	：	う：ん hhh.		【受け入れ】

タイ語の会話例 10 では、相談者が 105A で【決意表明】をしてから、助言者が 106B で相談者の【決意表明】に対して、【理解】をしており、日本語の会話例と同じような展開となっている。その後、相談者と助言者はしばらく将来の仕事について話し、124A で相談者が再び【決意表明】をしてから、助言者が 125B で相談者の【決意表明】に対して再び【理解】をし、127B で「今学期の最後まで我慢したほうがいい」という【提案】した後、129B で「がんばってね」と相談者を【励まし】している。

会話例 10（TH8 会話）

≪終了部－決意表明の部分≫				
105	A	:	อืม(.)จะลอง(.)เรียนต่อไปละกันนะ.	【決意表明】
			ん(.)がんばって(.)勉強し続けてみるね.	
106	B	:	อืม.	【理解】
			うん.	
≪省略≫				
124	A	:	อือๆๆๆ(.)เรียนต่อก็ได้.	【同意】＋
			んんんん(.)勉強し続けてもいい.	【決意表明】
125	B	:	เออ.	【理解】
			うん.	
126	A	:	hhh.	
127	B	:	อดทน(.)หมดให้หมด(.)ให้หมดเทอมนี้.	【提案】
			我慢(.)今学期の(.)最後まで.	（助言）
128	A	:	ฮือ:.	【受け入れ】
			うん.	
129	B	:	สู้ๆนะแก.	【励まし】
			がんばってね.	
130	A	:	เออๆๆ.	【受け入れ】
			んんん.	

5. まとめ

以上に述べたように、「助言」の対象となる問題の事柄の深刻度が高い場面において、日本語とタイ語における談話構造および≪開始部－問題提示の部分①≫と≪終了部－決意表明の部分≫においての特徴は共通する部分が多いが、≪主要部－問題提示の部分②≫、≪主要部－助言の部分≫、≪主要部－解決案提示の部分≫において、日本語とタイ語では大きな相違点が見られた。それは、≪主要部－問題提示の部分②≫において、日本語では【問題提示】が非明示的な助言の要求となるのに対して、タイ語では【助言要求】で明示的に助言を求める傾向が強いということである。また、≪主要部－助言の部分≫において、日本語では助言者が【意見提示】で自分の意見を述べることによって、相談者に非明示的な助言を行うのに対して、タイ語では助言者が【提案】の形で相談者に明示的な助言を行う傾向が見られた。さらに、≪主要部－解決案提示の部分≫において、日本語では相談者が自分で考えた解決案について【意志表明】または【意見提示】の形でこれからその案通りにすると宣言する傾向があったが、タイ語では相談者または助言者が相手の解決案について【情報要求】で尋ねる傾向が見られた。

このような違いから、タイ語を母語とする日本語学習者が、日本語母語話者に助言を求めるときには、問題に対する解決案を相手に決めてもらおうとすることで、相手に負担をかけてしまったり、逆に、日本語母語話者に助言を行うときには、問題に対する解決案の選択肢を与えず、自分がふさわしいと思う解決案のみを出すことによって、相手に押しつけがましく思われたりする可能性がある。そこで、日本語教育現場ではこの点に関しても考慮しながら、教育を行う必要があるのではないかと考えられる。

＜参考文献＞

鹿嶋恵（2000）「「助言」における表現選択と意図の伝達―相互作用過程とコンテクストからみた談話分析―」『三重大学日本語学文学』11 号、pp. 106-94

串田秀也・好井裕明編（2010）『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社

熊取谷哲夫・村上恵（1992）「表現類型に見る日本語の「助言」の伝達方略」『表現研究』55 号、pp. 28-35

元春英（2012）「「助言」の談話構造に関する日中対照研究 ： 日本人大学（院）生と中国人留学生のデータをもとに」『日中言語対照研究論集』日中言語対照研究会 pp. 93-104

ザトラウスキー，ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析―勧誘のストラテジーの分析―』くろしお出版

ソーピットヴッティウォン，ユパワン（2010）「遅刻場面における言い訳の日タイ対照分析」大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻修士論文

Thanpawasu, Hathairat（2000）「Modes of Expressing Advice Employed in the Japanese and Thai Languages: A Comparative Study」タマサート大学教養学部日本語学科博士前期課程修士論文

筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版

トーンハーン，タッサワン（2012）「不運な経験を語る会話の日・タイ対照研究―深刻度による構造の違いに注目して―」大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻修士論文

Brown, P. & Levinson, S.（1987）*Politeness：Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press.

---

i 調査を 2 回（場面①③と場面②④）行い、それぞれで異なる調査協力者にお願いしたため、各言語の母語話者の調査協力者の総数は 10 ペア計 20 名ずつである。

ii 日本語母語話者には日本語のロールカードを、タイ語母語話者にはタイ語に訳したロールカードを利用した。

iii 文字化に用いた記号は、串田・好井編（2010）の「会話データに用いる転記（トランスクリプト）記号」と、筒井（2012）の「トランスクリプト（転写）に用いた記号の一覧」を参考にした。

iv 「発話機能」は、ザトラウスキー（1993）、ソーピットヴッティウォン（2010）、トー

ンハーン（2012）を参考にし、筆者で修正を加えた。
[v] ≪問題共有の部分≫は、両言語の会話データとも見られなかったので、本稿では取り上げない。
[vi] 会話の部分の出現タイプとして（1）≪問題提示の部分②～≫→≪助言の部分≫、（2）≪解決案提示の部分≫→≪助言の部分≫、（3）≪問題提示の部分②～≫＋≪解決案提示の部分≫→≪助言の部分≫、（4）≪解決案提示の部分≫＋≪問題提示の部分②～≫→≪助言の部分≫が見られた。